



神の母聖マリア (ルカ 2:16-21)

戸惑う出来事を突破して

神の母聖マリアの守るべき大祝日を迎えました。カトリック教会は、神の母聖マリアに、新年のスタートを大切にしている日本と日本の教会をゆだねようとしているのかもしれませんが、2017年を、どのように過ごせばよいのか、マリアの模範を仰ぐことにしましょう。

皆さんあらためて、新年おめでとうございます。過ぎた年は皆さんにとっても、入れ替わりの年で戸惑うことも多かったかと思います。わたしも、これまで六年間住んでいた環境からがらりと変わり、戸惑いながら何ができるのかを探しつつ過ごしてきました。

一つお知らせしておきたいことがあります。わたしは年賀状を近くの人に出さないことにしています。小教区の皆さんから年賀状をいただくこともあります。こうして新年を皆さんと迎えますので、年賀状は省略させてもらっております。小学生とか保育園の園児の場合は、届いたのを見てから出すこともあります。それ以外は出しておりませんので、お許してください。

福音朗読に入りましょう。登場人物は大きく二手に分かれています。羊飼いたち、そしてマリアとヨセフは、幼子の誕生をとおして神の働きに思いを向けようとしています。これが一つのグループです。もう一つは、羊飼いたちがこの幼子について天使が話してくれたことを知らせましたが、羊飼いたちの話をも不思議に思うだけの人々です。

一方は、出来事を見て、その出来事の中で何が起きているのかを見極めようとしています。もう一方の人々は、出来事を見るには見ますが、出来事の表面、うわべだけに目を奪われている人々です。それはたとえて言えば、手品を見せられてどうしても仕掛けが見破れずに目を丸くしている人と、どうすれば気付かれずに実行できるのかをじっくり考えてトリックを見抜く人の違いでしょうか。

手品はわたしの専門分野ではありませんが、ふたをしっかりと閉めた瓶の上に五百円玉を置いて、その上に手をかざして五百円玉を瓶の中に落とすという手品があります。わたしはその程度の手品でしたら見破られずに実演して見せることができるかなあと考えています。

ジャムなどを入れる瓶を空にして、あらかじめふたの内側に五百円を張り付けておいてふたをしっかりと閉め、それからふたの上に五百円を置き、手を勢いよく押し付けると、ふたの内側の五百円が落ちる。あとはふたの上に置いた五百円をさりげなく取り除けば、見た目には五百円が通過して瓶の中に落ちたように見えるわけです。

出来事の向こうにあるものを見抜くことができない人には、いつまでもその手品は有効だと思えます。しかし必ず何かの仕掛けがあるに違いないと思って、日夜考え抜くなら、ある日その仕掛けを思い付くでしょう。羊飼いたちは、今まで何度も見たであろう赤ん坊の誕生に遭遇したのですが、マリアとヨセフに見守られている赤ん坊を見た時、本当

に起こっていること、つまり「見聞きしたことが天使の話したとおりであった」（2・20）この見逃せない点を見抜いて、神をあがめ、賛美しながら帰って行ったのです。喜びのしるしはこれこれの形で与えられる。それが家畜小屋の中であっても、天使の話した通りであれば、ここに神の救いの計画が実現したのだと羊飼いは理解できたのです。

すべての人が出来事の中で実現していることを理解できるわけではありません。羊飼いたちの話をも不思議に思った人たちがいました。彼らは出来事が天使の話したとおりであったと聞かされても信じることができなかつたのでしょうか。羊飼いが信用できなかつたのかもしれないし、救い主が飼葉桶に寝かされているなど、信じられなかつたかもしれません。いずれにしても、表面的なことに目を奪われて、与えられたしるしの中で実現している神の計画まで思い至らない人たちがいるのです。

それは現代でも同じことです。人類の救い主が、十字架にかかって亡くなるなど、とても考えられないことです。けれども実際には出来事は起こり、その中で神の計画が実現したのです。特にマリアはイエスの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしました。

誕生から、十字架上の死まで、出来事の表面だけに目を奪われるならどこで信頼を失っても不思議ではありませんでした。けれどもマリアは、戸惑う出来事をいつも突破して、神の計画が実現していくのを目の当たりにしたのです。出来事の表面に惑わされないマリアの姿は、すべての人の中で際立った特徴です。

ここに、わたしたちの模範があります。マリアは何度も、戸惑いを覚えるような出来事にぶつかり、そのたびに戸惑う出来事を突破して、本当に見なければならぬものを探し出して進みました。マリアが表面的な出来事を突破するとき基本にしていたのは、出来事の中に実現していく神の計画を、じっと思い巡らすということでした。

わたしたちも、今年一年難しい問題に直面することもあるかと思えます。しかしあきらめたり投げ出したりするのではなく、そのたびに「神は今ここで何を実現させようとしておられるのだろうか」と思い巡らす。そうして本当に見なければならぬものを探し出し、前に進んでいきましょう。

わたしたちが前に進むときの判断基準は、マリアと同じく「神が望まれることは何か。神が喜ばれることは何か」です。答えはすぐには見つかからないかもしれない。その時は立ち止まって、思い巡らしましょう。神が必ず指し示してくださる唯一の物差しで、2017年を歩みだすことにしましょう。